

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人 社団明徳会		
事業所名	グループホーム いつくみの郷 (2階)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kami=true&ligyosyoCd=2278300311-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院が近くにあり、いつでも受診することができる体制になっている。 ・希望や必要性があれば、リハビリへ通院することができる。 ・週に2回(日・木)、利用者と職員が一緒になって食事作りに取り組んでいる。 ・「気持ちの良い生活」を理念に、一人一人のペースに合わせ、できる力を活かせるように対応している。・毎月おたよりを発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>浜松市の北部、郊外型商業施設に程近い場所に事業所は位置しています。また、隣接病院と24時間対応の医療連携が出来ていて、安心できる環境にあります。中高生の職場・福祉体験の受け入れが契機となり、新卒でグループ内の施設に入職した学生もおりました。月2回は外出の機会があり、外食ピクニックやドライブで楽しみ、またイチゴ狩りは家族も参加するなど、行事の充実ぶりを毎月発行の「いつくみの郷たより」の中で窺う事ができます。各種の取組みが功を奏し、また職員全員が常勤で定着率も高く、入所前の硬い表情が穏やかな表情と変遷していく様子を見るにつけ、管理者・職員の大きな励みとなっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念とし、プラン立案時、サービス提供などで迷った時は、原点に戻り、支援するように心掛けている。	玄関に掲示された「気持ちの良い生活」の理念は、職員に「自分ならどうされたいかを常に意識しながらケアに活かすように」と管理者は求めている、毎朝のミーティングで話し合っています。常に立ち戻る原点として、職員の意識に浸透が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時に近隣の方々や通学の子供たちと挨拶を交わしている。外食や買い物は近隣のスーパーなどへ行き、交流の場としている。	自治会にも加入し、散歩時の挨拶やおすそ分けもあり、事業所の祭りにも地域からの参加があります。また、自治会の回覧用に「いくつかしみ便り」を隔月発行しています。中高生の福祉・職場体験を受入れ、来年度は看護体験の受入も予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に2か月に一度おたよりを回覧することにより、少しずつではあるが、理解や協力を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域の方々の意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、市、包括、家族代表の参加があり、進行は職員がもちまわりであり、2ヶ月に1度開催されています。参加者からは困難事例に対し中立な立場でアドバイスいただき、自分たちのケアの方向性を評価してもらえるなど自信に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、意見交換をしている。	運営推進会議には市担当者、地域包括も毎回参加しています。案内状も直接窓口へ届け、相談しやすい関係作りに努めていて、有益なアドバイスをもらっています。介護相談員の受入が毎月あり、介護保険課が主体となったグループホームの会議にも参加しています。	市の担当者とは相談しやすい関係が頼えますが、運営推進会議議事録も直接届けるなど、さらに事業所を理解してもらえる工夫を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。施設内だけの生活にせず、定期的に外食・ピクニックなどを企画している。希望があった場合は、随時散歩など外出ができるようにしている。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、玄関施錠はありません。タッチ式開錠スイッチが、通常の出入りには問題ない位置に設置されていて、利用者が扉前で迷っている時には職員が寄り添って、いつでも出られるように対応しています。最近では事前に察知して外出を誘う対応もできています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会の参加、資料などを読むなどして勉強をしている。ストレスを溜めないように、職員同士で声を掛けあい、悩みを共有することで負担を軽くすることができるように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や本などで勉強した。必要な利用者には活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、面談をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、介護支援相談員の派遣を導入している。また、運営推進会議へのお誘いもしている。	面会時に職員が気軽に声掛けをし、利用者の状況を丁寧に説明しており、意見の言いやすい関係づくりを心掛けています。面会の少ない家族にはせめて行事への参加をとの思いから、職員が迎えに向くなど熱心な取り組みがみられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決め事は、フロアごとにもなっている。年始に「一年の反省と来年の抱負」をA4一枚に書いて提出してもらっている。	フロアミーティングを毎月行っています。また、職員が「一年の反省と来年の抱負」を书面化し、自発性を持ったケアに取り組んでいます。管理者は職員の夜勤帯に向いて、個別の相談に乗ることもあり、言いにくい意見の吸上げに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回は勉強会への参加をもらっている。外部の研修に関しては順番に指名して行ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会主催の研修には積極的に参加をもらい外部の同業者との交流を図っている。また、役所で最近実施されている、グループホームの連絡協議会にも可能な限り、参加していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人・家族に聞き取りをしている。入居後も、話しかける機会を作り、まずは顔を覚えてもらうことで、安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族からの情報の聞き取りをするのと同時に要望、不安などをきいている。面会の際も、困りごとはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を聞き、必要としている支援を見極め日常生活が安心して送れるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはやって頂き、職員から相談をもちかけるなど、お互いに助け合い、上からの目線ではなく、家族のような関係になれるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に家族に報告、相談をし、ともに支えあっていける関係を築けるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのなじみの関係が継続できるように、面会の制限は基本的にはしていない。なじみの場所へ出かけられるように家族とも協力し、支援している。	入所歴が長い利用者が多いため、毎週皆で行う習字などのレク活動が馴染みのひとつとなっています。新聞を購読したり、家族との外出で楽しむ利用者もあり、また、若い職員にゆかたの着付けをしてあげ、優しい母親の一面が表出する利用者もおります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士だけではなく、行事などを通して関われる機会を作っている。自分から輪に入れない方は、職員が橋渡し役をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後、入院先へ面会に行き、なじみの関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に今の暮らしはどうか、困ったことはないか聞き、希望や思いに添えるように検討している。自分から伝えることが困難な方に対しては、日頃の発言や行動からも思いを汲み取るようにしてはいるが、どれだけ汲み取ってあげられているかは課題の一つ。	利用者との関係が長いので、日々のケアを通して利用者の意向把握ができています。イエスノーで答えられるような話材の提供で表出に努め、利用者の心にコミュニケーションしようとする工夫が見られます。得られた発語は生活記録と実施記録表に記し介護計画に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、面談、日常の会話から把握し、なるべくそれに近い生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に毎日の様子を記入し、心身の状態、できる力などの把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアプラン会議で話し合い、3ヶ月ごとの評価見直しに繋がっています。時には理学療法士の参加も得て、別チャンネルからの意見も加え、画一的にならない介護計画を目指した仕組みがあります。変更の際には、家族に面談し了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで気付いたことは記録し、職員で共有できるようにしている。又、介護計画にもつなげられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	三か月ごとに計画の見直しをし、その都度ニーズや目標、サービスは適しているか確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の公共施設を把握し、地域資源を利用し、暮らしが豊かになれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診し、適切な医療が受けられるようにしている。又、希望や体調不良があれば随時受診をするようにしている。	ほとんどの利用者が経営母体の病院をかかりつけとしていて、利用者と家族の最大の安心となっています。看護師資格の管理者のもと、毎日のバイタルチェックと24時間対応の病院が後盾となり、緊急時には速やかな対応ができる秀逸な医療連携が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調の変化に注意し、気づいたことはすぐに看護師に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に受診し、病院との情報交換、相談をし、良い関係作りがされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時の状況に応じて医療関係者、家族、本人、職員で話し合い、方向性を決めていく。ホームでできる場所は職員一同で協力し、支援している。	継続医療の必要がない利用者の終末期ケアに取り組んだことがあります。看取りの実績はありません。重度化には病院への転所を支援し、入院後も職員が経過を窺いに行くなど、家族・管理者・職員・主治医が共に協力し合えるよう、日頃からより良い関係作りに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が起こった場合は、マニュアルに沿って行動するようになっている。定期的な訓練は行っていないため、不安も大きい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、どう行動したらいいのかわ確認をしている。地域とはいざという時は、協力し合うように話をしている。水害・夜間に関しては、マニュアル化されていない。	年に2回、隣接の関連施設と防災訓練を行い、自前の設備で放水訓練もしています。地域からの参加はありませんが、運営推進会議では地域の避難所的な役割を担うとの意見もあり、有事に備え関連施設と一体となった備蓄に取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた接し方、言葉を選び対応をしている。トイレの声掛けなどは声を掛ける場所や声の大きさなどに配慮している。	利用者の人格を尊重し、呼称は名前にさんづけを基本としていますが、利用者や家族の希望でちゃんづけの場合もあります。会話では常に敬語を心がけていて、とりわけトイレケアには配慮しています。毎年法人研修で接遇研修を受け、内部研修で共有化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も職員が決めてしまうのではなく、利用者自身がどうしているか確認し、実行できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、起床や就寝時間もその人の時間に合わせて対応している。職員本位にならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	画一的に支援するのではなく、それぞれの好みを把握し、おしゃれや身だしなみができる環境作りを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の昼食づくりのメニューを一緒に考え、それぞれのできる力に合わせて準備や片付け、調理などを行えるように支援している。	食事は法人内の厨房センターから届けられていますが、週1~2回は準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合い行っています。米とぎに精を出したり、食器の片付けで以前の自分を発揮する利用者の姿があります。週1回は汁粉やふかしイモなどおやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、不足して体調を崩さないように注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に歯磨き、入れ歯洗浄、うがいを任せてもらっている。口臭がある方にはうがい液を使用してもらうことで改善されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパットになるべく頼らず、トイレで気持ちよく排泄ができるように、一人一人に合った支援をしている。夜間は安眠のためその人に合った排泄の方法で対応している。	排泄記録表でターゲットを把握し、声掛け誘導で失敗の少ない排泄に努めています。一人ひとりに合った排泄支援に取り組んでいて、夜間は安眠優先や定時声掛け誘導等、その人に合った排泄方法を選んでいきます。出来るだけ夏は布パンを心がけていて、入所前から改善した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で体調に影響が出た方がいたので、排便の有無の把握をし、水分不足や運動不足にならないように注意していくのと同時に、牛乳やサツマイモ、プルーン、個人的にヤクルトや繊維のサプリメントなどを提供し予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望する入浴の時間になるべく入れるように対応をしている。拒否をした場合は、無理強いないで、次のタイミングをみて声掛けをしている。気持ちよく入ってもらえるように、入浴剤を使用したり、洗髪洗身の順序は一人一人の好みに合わせている。	毎日入浴準備があり、希望すればいつでも入浴可能で、朝、昼、晩の好きな時間に入浴できるよう支援しています。自立入浴で夜入浴を味わう利用者もおります。湯は個々に張り変え入浴剤も選べます。柚子や蜜柑風呂なども試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中活動し、夜間を休息の時間としているが、昼間に体を休める必要がある方もいるので、必要に応じて休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報にて薬の目的、副作用、用法用量を把握するようにしている。内服の状況が変わった時はその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとがあり、気分転換ができていないのではと感じる場面もあるため、今後は支援していけるようにしたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望、身体状況に応じて散歩や買い物へ行っている。家族とも協力し、本人の希望に添えるように努めている。	毎月1、2回は買い物や外出に出掛けていて、下着などショッピングモールでの個別購入支援も行っています。イチゴ狩りや初詣、また、フルーツパークなどにでも出掛け、季節を楽しんでいます。散歩は近・中・遠の3コースを用意していて、体力に合わせて選んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理したいという希望のある方には、ある程度の金額を手元を持って頂いている。買い物の時、自分で支払いをしたいと希望された時は、手元の財布から支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやりとりがおこなえるようにしている。暑中見舞いや年賀状を出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に十分配慮している。共有スペースには雑誌や新聞、本などを用意している。居心地の良い雰囲気であると思う。	行事で出掛けた写真が壁に飾られ、楽しい思い出がよみがえってきます。温度湿度計でしっかり管理され、エアコンと、程良い換気で外気との温度差が少ない快適な居住空間ができています。バリアフリーの畳の間に、くつろぎの雰囲気ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士で食事ができるように席を工夫している。利用者同士で居室を訪問し、おしゃべりをしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や道具を用意して頂くようお願いしている。	カーテン、電動ベッド、押し入れ、エアコン、洗面台が備え付けてあって、ベッド困難者はクッションフロアを敷いています。筆筒、仏壇、冷蔵庫、ソファなどの馴染みの物の持ち込みもあり、また、趣味の大正琴を持ち込んで利用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせて、安全に過ごせる環境作りをしている。		